



株式会社新越ワークス  
IoT 推進主任  
高桑 貴義 さん

### 燕の産業により強いつながりが生まれる

現在は、燕版共用クラウドの構築と実証実験に取り組んでいます。ここでは、今までクラウドで行っていた受発注を、クラウド上の共有スペースでデータを活用して行います。これまでは入力したものを印刷してファクスを送り、確認の電話をする。この当たり前だった作業が半減され、作業時間は大幅に削減できました。このようにデータで「見える化」とすると、効率的に業務に取り組みます。燕版共用クラウドの他にも、今後は燕市IoTシステム開発補助金を活用し、社内の環境整備に努めていきます。

燕の産業は企業間のつながりが強いことが特徴です。ネットでのやり取りは、そのつながりの希薄化をイメージされるかもしれませんが、燕版共用クラウドが実現すると、企業間のやり取りが円滑になり、時間にも余裕が生まれ、労力を注ぐべきものに集中することができま。これは一企業にもたらされる恩恵ではなく、**燕の産業界全体の生産性や品質の向上につながる**ものです。企業間の連携を再構築し、産業を活性化させる燕市IoT推進ラボでの取り組みは、**これまで以上に人や企業のつながりを強くする大きなステップ**だと思います。



燕市IoT 推進ラボ 会長  
IT コーディネーター  
よこやま きよし  
横山 淳 さん

### IoT 推進でより輝く燕に

IoTとは、機械や人、モノがインターネットでつながり、収集されたデータを使って生産性や品質向上の実現、さらには新しい価値を生み出すための道具です。燕の企業が抱える最大の課題は「人材不足」です。これは日本産業界全体の共通課題です。

さらに燕市の特有の課題としては、市内の企業間の受発注がまだに、電話やファクスで行われていることです。アナログデータを各社の生産管理システムに再入力するのに入力が遅かったり、入力間違いが生じたりするという、基本的かつ深刻な問題点があります。

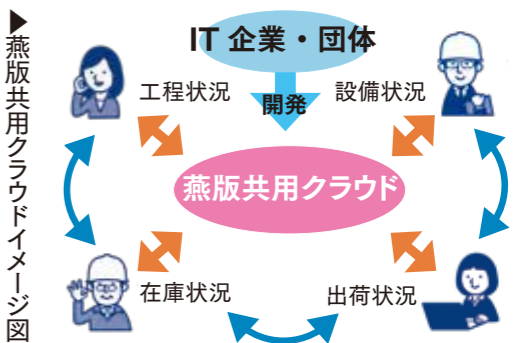
燕市IoT推進ラボは、経済産業省が推進する、全国に約100件存在する「地方版IoT推進ラボ」の1つであり、新潟県内では4つ目の組織です。最大の特徴は、「共用クラウド」の構築です。この共用クラウドは、前述の燕特有の基本的課題を解決するものです。利用する企業は利用料はかかりませんが、それ以上の効果が見込まれます。

5年ほど前、国は「**つながる工場**」という言葉で、工場間の各種情報を共有して効率化を図るという方針を打ち出しました。燕の共用クラウドの利用企業が増え、優れた事例として全国にアピールできるようになることを期待しています。

### 燕版共用クラウド

燕版共用クラウドとは、各企業で蓄積したデータを共有し、企業間で有効活用するためのネットワークです。燕は元来、企業間の分業によるものづくりの産地です。企業間でのやり取りは重要ですが、分業では他社の工程や進捗状況が把握できないというデメリットがあります。

燕版共用クラウドは、受発注のデータや他社の工程・在庫状況、納期に至るまで「見える化」し、共有することを可能にします。これにより、企業間のやり取りの円滑化、納期や受発注数の相違の防止による生産性の向上や業務の省力化が期待されます。2年後の本格運用開始を目指しています。



### ラボメンバー企業の事例



#### 熊倉シャリング有限会社でのIoT 導入事例

社員の持っているタブレット（写真左）で、設計図の確認や工程管理、作業内の問題点や改善点などを共有しています。また、社員の工程管理のデータは、コンピュータに集約され、一目で納期や進捗状況の確認が可能となっています（写真右）。

「燕市IoT 推進ラボ」はラボメンバーを随時募集中です。

● 問合せ 商工振興課 新産業推進係 ☎ 0256-77-8232

### オンライン営業やIoT導入に市補助制度を活用ください

※詳しい内容は市ホームページでご確認ください



#### 見本市出展小間料補助金 (対象経費拡充)

国内の見本市にかかる出展小間料の一部を補助します。オンライン展示会の出展小間料も補助対象です。

補助率：出展小間料の1/2以内  
上限：25万円  
令和3年1月29日(金)まで

#### 燕市IoTシステム開発補助金

燕版共用クラウドに接続するためのシステム開発における必要経費の一部を補助します。

補助率：対象経費の1/2以内  
上限：100万円  
令和3年1月29日(金)まで

#### 燕市オンライン営業推進支援補助金

市内事業者がインターネットを活用し、県外への販路開拓・拡大を行うための必要経費の一部を補助します。

補助率：対象経費の2/3以内  
上限：100万円  
8月31日(月)まで

### ものづくりの「これから」

AIやIoTなどのデータ産業の発達により、世界は想像を超える早さで進化し、これまで実現不可能と思われていた社会の実現がすぐ目の前まで来ています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性も示唆されています。

燕は幾度となく転換期を迎えながら、確かな技術力と強いつながり、柔軟な対応力での困難を乗り越えてきました。これからの産業は、IoTをはじめとした先進技術を活用し、新たな製品・サービスやより質の高いものを生み出していくことが求められています。

燕市IoT推進ラボや市の支援制度は、ものづくりのまち・燕を新たな段階につながる手助けとなるものです。伝統的な技術と先進技術の融合、官民の連携、何より幾度の逆境を跳ね返してきた燕のベンチャー精神で、一人ひとりが輝くまち燕を実現していきます。